

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691400075		
法人名	有限会社 おりの		
事業所名	グループホームほかほかⅡ		
所在地	徳島県海部郡海陽町久保字板取12-1		
自己評価作成日	平成28年 1月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有限会社おりのの理念である『温もりとやすらぎのある生活を』に沿った支援とほかほかⅡの目標である『利用者が日々笑顔ですごせると共に、職員も常に笑顔を決やさない』を目標に支援しております。当事業所は医療機関との関係が密であり、利用者様、ご家族様の希望があれば、住み慣れた地域で最期を迎えて頂けるよう支援できる体制を整えております。又、隣接する各種介護サービス事業所とのかかわりも密に図れており、利用者様、職員ともに密に交流も図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近隣には海岸線が広がっており、周囲には豊かな自然がある。また、公園や神社、道の駅もある。事業所では、四季折々の花の咲く環境を整備するなど、季節の移り変わりを肌で感じることができる。天候の良い日には、利用者と職員で事業所周辺を散歩するなどして、近隣の住民と挨拶を交わしている。また、同一法人の運営する事業所の利用者との交流を行っている。職員間で密に連携を図っているほか、夜間等の緊急時には、協力医療機関の協力を得ることのできる体制を構築している。また、やむを得ず重度化に至った場合や終末期に関する方針を定めるなど、家族や医療関係者、職員間で連携を図りつつ終末期ケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼか II 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の『温もりとやうらぎのある生活を支援します』に沿った支援をしつつ、ぼかぼかIIの目標である『利用者様が日々笑顔過ごせると共に職員も常に笑顔を絶やさない』を朝礼時に職員で唱和し、業務に取り組んでいます。	職員は、毎朝の申し送り時に理念を唱和している。全職員で理念を支援の原点として捉え、日頃の支援を通じて共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ボランティアの方々が慰問してくださり、歌や踊りを披露してくださり、利用者様と地域の方々と一緒に歌や踊りなどを行い、交流を図っている。	事業所では、利用者が近隣を散歩したり、地域の住民と挨拶を交わしたりしている。地域のボランティアや保育所の子ども、小・中・高校生の来訪を受け入れるなどして、相互に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接して居宅介護支援事業所が認知症の方の相談等は相談者と一緒に考え、よりよい方向に支援が行えるようにしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所の近況や今後の予定を報告し、推進議員の方々から助言を運営に活かしております。又花見や秋祭り等施設行事にも参加して頂き、日頃の活動状況も見て頂いております。	年6回、運営推進会議を開催している。会議時には、利用者の状況や行事の報告を行っている。しかし、出された意見や課題等を職員間で話し合った上で、サービスの質の向上に十分に反映するまでには至っていない。	運営推進会議は、日頃の事業所の取り組みや課題を話し合ったり、地域から事業所の理解や支援を得る貴重な機会であることから、2か月ごとの定期的な開催を期待する。また、会議時の積極的な意見交換と運営面への反映が図られるよう工夫されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方との連絡は密に行っており、書類等の提出物があれば、郵送せず窓口まで持っていく、情報交換を行っております。	日頃から、管理者は町担当窓口を訪問し、事業所の取り組みや活動内容について話し合うようにしている。また、課題等が発生した際には、電話で連絡をとるなどして、積極的に協力関係を構築するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事項は玄関先に啓示し、身体拘束は行わないようケアに取り組んでおります。朝礼時や職員会議等において、身体拘束にあたるか、近い状態であるかを話し合い、身体拘束がないよう対応しております。	管理者や職員は、身体拘束の弊害の理解に努め、利用者の自由な暮らしを支援している。職員は、身体拘束に関する勉強会や外部の研修等に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修等でも虐待に関しては、徹底して行っている。虐待がないよう日々職員の処遇に気を付け、職員からの情報を聞き取り、虐待がないよう努めている。時に全員周知で、管理者申し送りを行い、日々の処遇について考えてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼか II 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対処者の方はおられないが、常時勉強を行いながら、対象者がおられるときには、支援が出来るよう対応していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族の方と管理者が細かく詳細に説明ができるようしております。介護保険改正やその他変更がある場合は、文書にして送付、また訪問し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族様からの要望、意見は運営推進会議等で聞ける機会を設けております。また意見箱も設置しております。	事業所では、家族等の来訪時には声かけを行うなどして、気軽に話しあうことのできる関係を築いている。職員間で、利用者や家族の意向を話し合い、ケアに活かすよう検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常時職員とコミュニケーションを図り、意見を言いやすい環境を整えている。一度は行動に移し、危険がない範囲で行える事は積極的に行えるよう対応している。	事業所では、職員リーダーを配置し、日頃からケアに対する思いや意見を聞くようにしている。管理者はリーダーから報告を受ける仕組みとなっている。代表者は、管理者から業務報告等を受ける際に、職員一人ひとりから出された意見に耳を傾け、迅速に検討を行って運営面に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、残業時間を密に管理し、残業しなくてもすむ業務環境を目指し対応している。又介護専門職の資格を有するものが多く、さらに上の資格を目指すよう、資格を取ると給与に反映されるようになっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修等外部の研修へ参加できるよう環境を整え、スキルアップが行えるよう対応している。又外部研修で学んだ事を、内部研修として講師役で他の職員へ発表の機会も作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設関係者つながりで他県のGH等から施設見学の受け入れ等を行い、情報交換や職員同士の交流を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼか II 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度か訪問し、入居者様、ご家族様が安心して入居が出来るよう支援しています。ご本人がご家族が不安に思われていることを少しでも緩和でき、スムーズに入居が行えるよう支援しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何度か訪問し、入居者様、ご家族様が安心して入居が出来るよう支援しています。ご本人がご家族が不安に思われていることを少しでも緩和でき、スムーズに入居が行えるよう支援しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当法人は、高齢者複合施設を踏まえ、他のサービスも提供しており、本人、家族の方に相談しながらアセスメント等で適切なサービスが提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時に怒ったり喧嘩をしながらも、共に喜怒哀楽をみせながら、日々過ごせていけるよう支援していますが、あまり近い関係で、馴れ馴れしい態度にはならないよう、職員には注意を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来やすい環境を整えるよう支援し、利用者様とご家族様が落ち着いて会話等が行えるよう対応しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、知人、親類の方々が訪問しやすい環境を整え、本人様との関係が入居後も継続できるよう支援している。又なじみの理容室等への外出支援等も行っております。	事業所では、利用者の友人や知人等の来訪を快く受け入れており、また来訪しやすい雰囲気づくりに努めている。利用者が馴染みの理・美容院へ出かけることができるよう取り組んでおり、以前住んでいた自宅周辺へ散歩に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って、利用者一人ひとりの性格等を把握し、スムーズに生活が送れるよう支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼか II 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰をされた方がおり、自宅で一人暮らしのため、職員が自宅まで様子をみに行ったり、月に何回は、ご本人様が施設に遊びに来られており、		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理等により、どうしてもできないことが、みられるも、可能な限り入居者様の思い、希望を把握し実施が出来るよう努めております。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの視点に立って意向を把握するよう努めている。職員は、利用者の表情の変化や些細な仕草等を見逃すことのないよう配慮し、その人らしい暮らしの実現に向けた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にバックグラウンドや暮らしの情報等を、用紙にご家族の方に記入して頂き、把握してカンファレンス等で職員へ周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状態を観察し、朝礼時等に体調面等変化があれば話し合い、健康面、ADL面等の低下防止が図れるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りが日々のカンファレンスであるところから、申し送り上がった問題点等介護計画(ケアプラン)に活かし、支援しております。カンファレンスにおいては、ほとんどの家族様は参加が難しいですが、面会時等に意見聞いております。	毎日の申し送りの際に、職員間で気づきや意見を出し合っている。職員間で介護計画の評価や見直しを行っている。利用者の心身状況に応じて、随時、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいて、日々の様子観察、ADL面の状態等を記入し、介護計画見直し時にも活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズに出来る限り答えられるよう、職員の意見も聞きながら、環境、サービスの向上等が図れるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼか II 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民として生活が送れるよう支援しています。現在は十分には、地域の資源活用できていないので今後活用し、支援が行えるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と密に連携は図れており、かかりつけ医より他の病院受診等の指示があれば、ご家族様へ連絡説明を行い、かかりつけ医より紹介頂き、スムーズに他の病院で受診が行えるよう支援しています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、契約時の段階で、本人や家族等の希望があれば、同意を得て協力医療機関を主治医としている。協力医療機関とは、夜間等の緊急時の対応に関する連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、3名介護職員として配置しており健康管理、協力医療機関Drによる指示等がスムーズに行えるよう支援しています。又医療連携の看護師とも、電話連絡や訪問して頂き、健康管理、相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側と施設側が密に連絡を取り、週2回は病院へ訪問し、状態の把握を行い、主治医との連携も図り、早期退院受け入れが行えるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様には、重度化、終末期に向けた方針について説明を行っております。実際に重度化になった場合は、ご家族、Dr、施設側で話し合い、ご家族様の意思を尊重し、看取りの場合はチームで支援が行えるよう努めています。	契約時に、重度化した場合や終末期の事業所の方針や支援について説明し、理解を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、家族や医師、関係者間で再確認するなどして、終末期のケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時に関しては、すぐに連絡が行える連絡体制を整えており、かかりつけ医との連携も密に図れています。緊急時の対処方法等は、Nsにより定期的に説明が行える環境を整えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を実施しております。連絡体制も整え、施設に近い職員がすぐに駆けつけられるよう緊急連絡網を作成しております。	年2回、行政等の協力を得て、日中や夜間を想定した避難訓練を実施している。訓練には利用者も参加している。また、豪雨の浸水時には、早めの避難準備等を行う体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼか II 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者より日々の声かけに関しては、注意指導を行いながら、職員同士でも確認している。入居者様を尊重し、プライバシーの配慮が行えるよう支援しております。	職員は、利用者の行動や習慣を理解し、一人ひとりの気持ちが高ぶるときや介助が必要などときには、さりげない声かけや誘導を行うよう心がけている。また、声かけやタイミングなどを職員間で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションにて、本人の希望や思いが表らわせる環境を整えれるよう支援し、自己決定が行えるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間等、入居者様のペースを把握し、できる限り個々のペースに合わせて支援が行えるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容時等介助が必要な方は、服の色合いや好みを事前に本人や、ご家族に聞いて個性を十分に尊重しながら、支援が行えるよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、調理に関しては一括調理になっていますが、月に何回かは手作りの食事を行い、入居者様のリクエスト等も取り入れながら、入居者様と職員と一緒に下ごしらえや調理を行っております。	食事は、複合施設の厨房で一括調理されている。月1回、利用者と職員でおやつ作りなどを行っている。利用者は、自分の食器を片付けたり、テーブル拭きを行ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、栄養士はおりませんが、協力医療機関Drより、健康面でのカロリー等の指示があり、Ns中心に栄養面での管理を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様にあった口腔ケアを行い、口腔内も清潔保持が行えるよう支援しています。必要があれば訪問診察も受けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼか II 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力オムツ使用を減らしており、日中に関しては、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が行えるよう支援し、尿意・便意の維持、ADL面の向上が図れるよう努めている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声かけや誘導を行うことでトイレでの排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、適度な運動が行えるよう支援しております。又、医療面での連携を図り、緩下剤、洗腸等でスムーズに排泄が行えるよう管理しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴で入れる方の減少で、特浴日の回数が増えてきており、入浴日は決まってきた状態です。時間帯も午後からとなっているも、利用者様にゆっくりと入浴が行えるよう支援しています。	事業所では、なるべく2日に1回は入浴してもらうことができるよう支援している。利用者の心身状況に応じて、機械浴を取り入れる場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中状態等をみながら、個々の体力、日々の状態を把握し、職員で話し合い、休息が取れる環境が整えられるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員としてNsを配置しており、薬の事に関してはいつでも聞ける体制になっており、医療との連携も密に図れています。新しい薬が処方された場合は、Nsにより介護職員へ周知しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作りの食事の際は女性入居者様に皮むき等の下ごしらえを手伝って頂いたり、洗濯たたみなど日常生活のなかで、本人の意欲、張り合いが出るよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在ボランティアを通じての外出支援は行っておりませんが、病院受診等ご家族様と行かれることはみられております。施設側としては、散歩やドライブなど積極的に行えるよう支援しております。	事業所では、日頃から近隣の公園や神社への散歩を支援している。利用者職員で、季節の花見や地域の行事に出かけている。利用者が車椅子を利用している場合にも、ともに外出することができるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼか II 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の方が施設での立替払いにされており、全てレシートで、何を購入又、使用したかご家族様に説明が行えるようにしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承を頂き、ご家族の方への電話支援を行っております。又、お正月には、入居者様と職員で作った年賀状を作成し、郵送しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り居住されている方全員が居心地よく生活が送れるよう支援しております。リビングの提示版には、利用者様が作成した作品や、その時にあった飾りつけを行い、季節を感じて頂けるよう対応しております。	共用空間は清潔で明るく、居心地良く過ごすことのできる空間となっている。また、利用者一人ひとりの好みの席等を用意し、居場所の確保に努めている。壁面には、利用者や職員で作った作品を飾っている。観葉植物を設置し、草木の息吹を感じることができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには3人掛け用ソファ・1人掛け用ソファが・畳の間があり皆でわいわいと過ごせる場所と、落ちついてテレビ鑑賞が行える場所があり、入居者様一人ひとりにあった居場所作りが行えるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来る限り、使い慣れたものをお持ちして頂くようお願いをしております。個々に応じて居心地よく生活が送れるよう支援しております。	利用者には自分の使い慣れたものを持ち込んでもらっている。職員は、利用者の安全面に配慮しつつ、一人ひとりがこれまでの生活を続けつつ、居心地の良い空間で生活することができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に夜間等に関しては、薄暗く、足元も不安定な状態が多くみられる為、入居者様が不安なく安全に生活が送れるよう、職員で話し合いを行い、残存機能を活かしながら、転倒等のリスクも少なくなるよう支援しております。		